

2019 年 7 月 10 日

早期発見・早期治療の大切さを正しく認識し、定期的ながん検診受診を
「内視鏡検査に関する意識アンケート」結果
～7 月 14 日は内視鏡の日～

オリンパス株式会社（社長：竹内 康雄）は、「内視鏡検査に関する意識アンケート」の 2019 年調査結果を、当社が運営する健康応援ポータルサイト「おなかの健康ドットコム <https://www.onaka-kenko.com/>」で本日公開します。

当社は、内視鏡および内視鏡検査^{※1}の理解促進を目的とし、「内視鏡の日」^{※2}に合わせた意識調査を毎年行っています。2019 年に実施したアンケートでは、54,680 人の方から回答がありました。主なアンケート結果は以下の通りです。結果の詳細は、「おなかの健康ドットコム」でご覧いただけます。

※1 内視鏡検査とは：上部消化管内視鏡検査は、口や鼻から内視鏡を挿入し、食道、胃、十二指腸の検査を行うものです。大腸内視鏡検査は、肛門から内視鏡を挿入し、大腸の検査を行います。

※2 内視鏡の日とは：内視鏡医学のさらなる発展と普及を願い、(財)内視鏡医学研究振興財団が 7 月 14 日を「内視鏡の日」と制定しました。7 と 14 で「内視(ないし)」と読む語呂合わせから日付が決定され、2006 年 7 月に日本記念日協会より認定を受けています。

●アンケート結果の概要

1. 胃がん、大腸がんを早期発見した場合の 5 年相対生存率を正しく認識している人は、3 割未満と少ない。
2. 早期発見した場合の 5 年相対生存率を「90%以上」と回答した人の割合は、胃、大腸ともに内視鏡検査の受診経験のある人のほうが、ない人よりも多い。
3. 内視鏡が進化したと感じる点は、「検査の精度」、「内視鏡治療技術」、「検査時の負担(つらさ)」の順に選ばれた。

●アンケート結果に関する詳細データ

1. 胃がん検診の対象年齢(50 歳以上)であっても、早期に発見した場合の 5 年相対生存率が 90%を超えるということ^{※3}を正しく認識している人は、3 人に 1 人(31.2%)、大腸がん検診の対象年齢(40 歳以上)で正しく認識している人は、4 人に 1 人(25.2%)でした。

※3 国立がん研究センターがん対策情報センターより

【Q1. 胃がん、大腸がんが早期に見つかり、治療を受けた人が治る割合はどのくらいだと思いますか？】

＜アンケートでの回答結果＞

【胃がん】

年代\5 年相対生存率	29%以下	30-49%	50-69%	70-89%	90%以上
50 歳以上合計	1.6%	4.5%	20.1%	42.6%	31.2%
40 歳以上合計	1.7%	4.9%	21.8%	42.8%	28.8%
合計	1.9%	5.8%	23.6%	42.5%	26.2%

【大腸がん】

年代\5 年相対生存率	29%以下	30-49%	50-69%	70-89%	90%以上
40 歳以上合計	2.3%	6.4%	25.9%	40.1%	25.2%
合計	2.5%	7.4%	27.2%	39.9%	23.0%

＜本件に関するお問い合わせ先＞

●報道関係の方 : オリンパス株式会社 コーポレートコミュニケーション 広報・宣伝 松沢
TEL: 03-3340-2029(直通) FAX: 03-6901-9680

●報道関係以外の方 : 健康応援ポータルサイト「おなかの健康ドットコム」
<https://www.onaka-kenko.com/>

2. 上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査を受けたことがある人のほうが、ない人よりも、がんを早期発見した場合の5年相対生存率を正しく認識している結果となりました。ただし、検査を受けたことがある人でも、「90%以上」を選んだ人は、胃、大腸ともに3割程度でした。

【Q2. 胃がん、大腸がんが早期に見つかり、治療を受けた人が治る割合はどのくらいだと思いますか？】

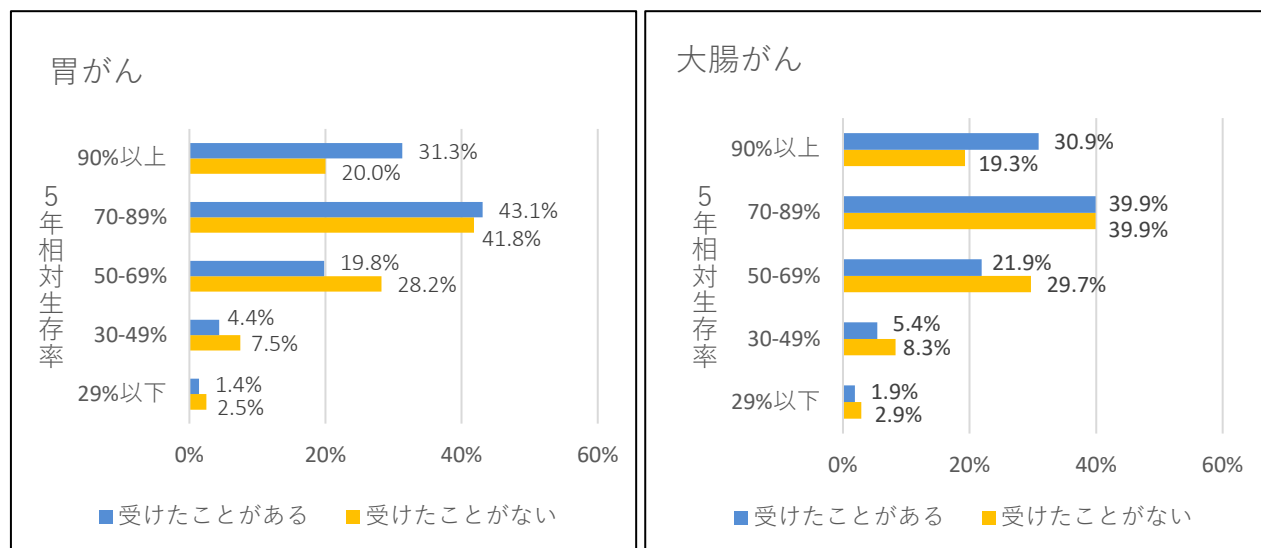
＜アンケートでの回答結果＞

【胃がん】

受診経験\5年相対生存率	29%以下	30-49%	50-69%	70-89%	90%以上
受けたことがある	1.4%	4.4%	19.8%	43.1%	31.3%
受けたことがない	2.5%	7.5%	28.2%	41.8%	20.0%

【大腸がん】

受診経験\5年相対生存率	29%以下	30-49%	50-69%	70-89%	90%以上
受けたことがある	1.9%	5.4%	21.9%	39.9%	30.9%
受けたことがない	2.9%	8.3%	29.7%	39.9%	19.3%

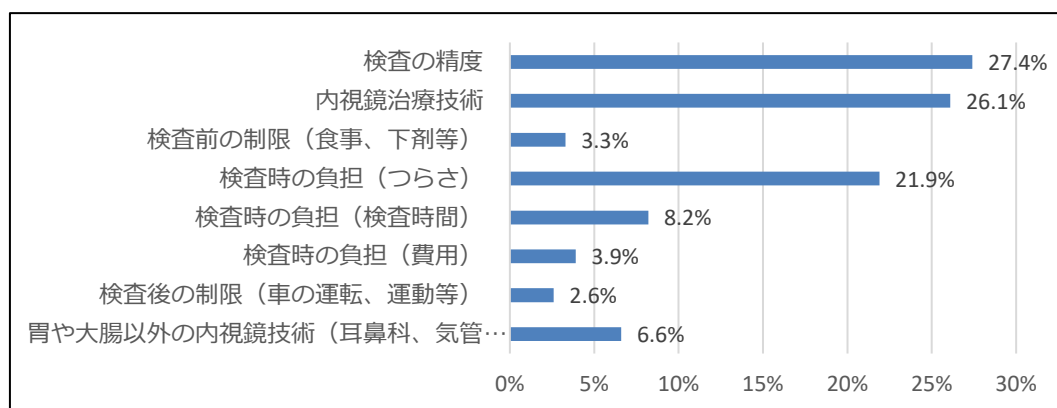


3. 内視鏡に関して最も進化したと感じる点は何か、という質問では、「検査の精度」(27.4%)「内視鏡治療技術」(26.1%)「検査時の負担(つらさ)」(21.9%)の順に選ばれており、機器や治療技術の進歩、検査時の負担軽減を実感している人が多い結果となりました。

【Q3. 内視鏡に関して過去から最も進化したと感じる点は何ですか？】

＜アンケートでの回答結果＞

	検査の精度	内視鏡治療技術	検査前の制限 (食事、下剤等)	検査時の負担 (つらさ)	検査時の負担 (検査時間)	検査時の負担 (費用)	検査後の制限 (車の運転、運動等)	胃や大腸以外の内視鏡技術 (耳鼻科、気管支、泌尿器、等)
合計	27.4%	26.1%	3.3%	21.9%	8.2%	3.9%	2.6%	6.6%

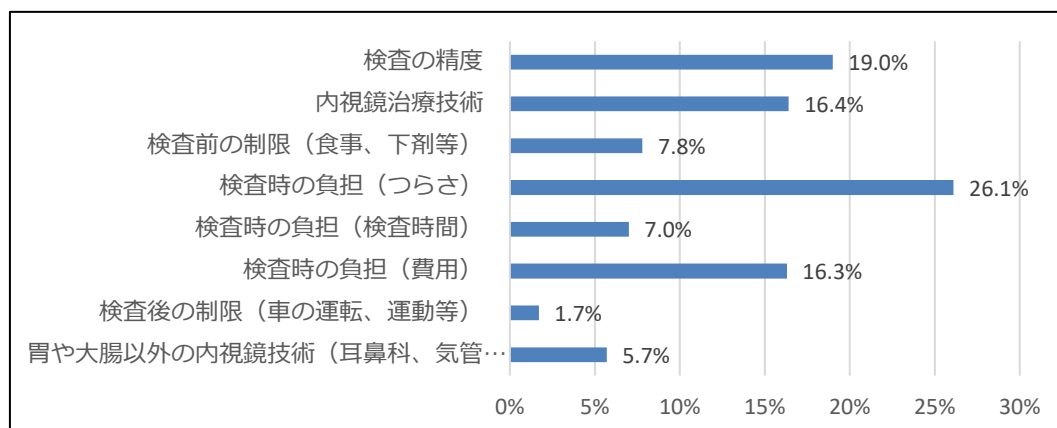


4. これからの内視鏡に関して最も期待することは何ですか？という質問では、内視鏡が進化したと感じる点の質問と同様に、「検査時の負担(つらさ)」(26.1%)「検査の精度」(19.0%)「内視鏡治療技術」(16.4%)といった項目が多く選ばれました。Q3 の質問で進化した点では 3.9%であった「検査時の負担(費用)」が 16.3%となり、費用面について改善を期待する人が多いという結果となりました。

【Q4. これからの内視鏡に関して最も期待することは何ですか？】

＜アンケートでの回答結果＞

	検査の精度	内視鏡治療技術	検査前の制限 (食事、下剤等)	検査時の負担 (つらさ)	検査時の負担 (検査時間)	検査時の負担 (費用)	検査後の制限 (車の運転、運動等)	胃や大腸以外の内視鏡技術 (耳鼻科、気管支、泌尿器、等)
合計	19.0%	16.4%	7.8%	26.1%	7.0%	16.3%	1.7%	5.7%



●アンケート結果の分析・講評： 田坂記念クリニック 山口芳美先生(内視鏡指導医)

「早期発見・早期治療で治る可能性は高まります。定期的に受診するよう心がけましょう」

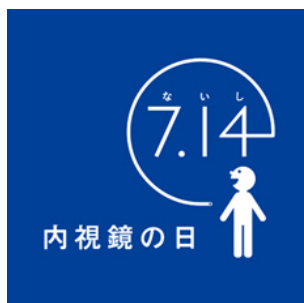


がんを早期に発見した場合の治る割合についての回答を、内視鏡検査の受診経験のある方とない方に別けて見ると、胃がん、大腸がんともに、受診経験者のほうが、経験のない方よりも「90%以上」と答えた方が多い結果となりました。ただし、内視鏡検査の受診経験者であっても、その回答率は3割程度に留まります。検査を受けたことがあっても、早期発見、早期治療により、がんと診断されてから5年後に生存している患者さんの割合を示す5年生存率が90%以上になることを正しく認識している方は少ないようです。胃がん、大腸がんは、早期発見、早期治療できれば、治る可能性は高まります。

内視鏡は、高画質化や特殊光を用いた観察技術などさまざまな進化を続けています。病変を早期発見することができれば、多くの場合、内視鏡による治療も可能です。また、昔に比べると、内視鏡の体内への挿入部は、径が細くしなやかに進化しています。さらに、鎮静剤により負担を和らげるなど、検査方法の改善も進められています。内視鏡検査の受診が必要だと分かっている、「検査時の負担(つらさ)」に不安を感じる方は、医師に相談し、不安を解消の上、定期的に受診することで、早期発見・早期治療に心がけましょう。

■アンケートの実施概要

対象： 全国 20 歳以上の男女
方法： インターネット調査
「おなかの健康ドットコム(<https://www.onaka-kenko.com/>)」上の特設ページで実施
期間： 2019 年 2 月 4 日から 3 月 22 日まで
回答者数： 54,680 名 (男性:29,666 名、女性:25,014 名)
設問数： 全 15 問



「7 月 14 日は内視鏡の日」



上部消化管内視鏡検査のイメージ

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。